



平成27年5月発行
号外

民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

きばちゃんずボイスvol. 78

中区最年少！堺市議会議員 木畑ただし後援会通信

大阪市「廃止・分割」ストップが政治への失望感へと変わらぬように！

大阪市の廃止・分割を問う住民投票は、わずか一万票の僅差で否決をされました。この結果を受けて橋下市長は今任期限りでの退陣を表明されました。住民投票の期間中に「次は堺」と繰り返し仰っておられたので、堺市民にとってはほっと一息というところかもしれませんが、住民投票が否決されたら、本当にこれから改革はできないのでしょうか？

今回の住民投票へ至る一連の流れを分析してみると、いわゆる「大阪都構想」は理論としては破綻していたと考えます。「二重行政を無くして大阪を豊かに」がキャッチフレーズでしたが、当初4000億円の経済効果があると宣伝していた二重行政解消による経済効果は、投票直前には一億円にまでしぼんでしまいましたし、そもそも何が無駄な二重行政にあたるのか明確な答えはなかったように見受けられます。(WTCとゲートタワービルは確かにバブル期の失政ですが二重行政とは言えません) 大阪市が疲弊したのは大阪市と大阪府の二重行政のためではなく、本社がどんどん東京へ流出したからです。また、大阪市が赤字体質なのはもちろん行政の無駄も一因かもしれませんが、根本的には基礎自治体としては日本最大の100万人も多い昼間人口を支える必要性からのものです。

これらの矛盾にもしかしたら市長ご本人も気づいており、最終的には憲法改正と絡めた政府との駆け引きによる大阪市内へのIR(統合型リゾート)誘致で経済効果の辻褄を合わそうとしていたのではないかと推測します。IRには実際にシンガポールという一国を立て直しただけの経済効果と集客効果があります。IR誘致については大阪再生に向けて引き続き真剣に検討しなければなりません、制度を変えれば大阪が復活するという話とは全く無関係です。よく引き合いに出されましたが、ロンドンが復活したのは広域行政を担うロンドン市を復活させたからではなく、金融ビッグバンによりシティへの外資の受け入れを促進したからです。

世界の流れは間違いなく集権ではなく分権です。さらなる政令市への権限移譲、地方交付税制度の改革、政令市への課税自主権の付与こそが、大阪と堺の復活のためにこれから必要とされる改革です。賛成派の皆さんの多くは、「座して死を待つより打って出よ」との思いであったのではないかと思います。「反対するなら対案を」との声も多く聞こえました。変えるべきものは変える、守るべきものはしっかり守るとの観点から、自分自身も対案の説明を尽くしたつもりですが、今回の住民投票は二者択一でしたのでこのような是々非々の議論は難しかったのかもしれませんが、一方で、これだけ多くの市民が、自らの街の未来について真剣に考え議論する機会は非常に有意義であったと思います。だからこそ終盤には人格攻撃や誹謗中傷の応酬の様相になってしまったのは非常に残念でした。政策に絶対に正しい方向性などありません。だからこそ議会というものがあり、丁寧に議論を尽くし、結論を出し続けていかねばなりません。

住民投票の結果が指し示すのは、多くの市民の皆さんが閉塞感を感じており、既存の政治に満足していないという事実でもあり、これは現場の政治家の一人として重く受け止めねばならないと思います。自分自身、政治を志したのは、現状維持のためではなく、政治をより良い方向に変革せんとするためです。だからこそ、堺を守るために大阪市の廃止・分割に反対した議員の一人としてこれからの堺について大きな責任があると決意を新たにしています。「やっぱり都がよかった」とだけは絶対に言われぬように、具体的に魅力的な堺の「改革」を必ず前進させてみせます！

木畑ただしへのご意見はこちらから！



info@kibata.jp

木畑ただし略歴

昭和51年7月19日生 妻・一男二女と5人家族
大教大付属平野中卒、大学入学検定合格、甲南大学法学部卒、同志社大学院中退、衆議院議員公設秘書、水産会社役員を経て、平成23年4月に堺市議会議員に初当選。平成27年4,552票もの多くのご支持を得て2期目当選を果たす。現在、堺市議会議員(2期)、民主党大阪17区代表代行、堺高石青年会議所理事としてより良い堺創りに奮闘中

5月の活動写真館

21日(木) 新任期がスタート！



議長は維新の水ノ上成彰議員、副議長は公明党の宮本恵子議員。木畑は健康福祉常任委員会の副委員長を拝命しました！

30日(土) 校区の防災会議！

西陶器小学校で開催された校区の土砂災害防止法の説明会に出席。二期目もこの課題には最優先で取り組みます！

